


マイクロコントローラ技術情報

技術通知 78K0S 統合デバッグ ID78K0S-QB 使用制限事項の件		発行番号	ZBG-CD-07-0057号	1/2
		発行日	2007年8月30日	
		発行部門	NEC エレクトロニクス株式会社 マイコンコンピュータ事業本部 汎用マイコンシステム事業部 開発ツールソリューショングループ 	
文書分類	○ 使用制限事項	バージョンアップ	ドキュメント誤記訂正 (正誤表)	その他
関連資料	ID78K0S-QB Ver. 2.90 統合デバッグ 操作編		資料番号: U18247JJ1V0UM00	
	78K0S 統合デバッグ ID78K0S-QB V2.90 使用上の留意点		資料番号: ZUD-CD-06-0166	

1. 対象製品

対象製品名	概要	対象バージョン
ID78K0S-QB	IECUBE, MINICUBE+, MINICUBE2用 統合デバッグ	V2.90

2. 新たな制限事項

今回新たに No. 44~No. 48 の使用制限事を追加させていただきました。
 詳細は、添付の別紙（使用制限事項一覧）をご参照ください。

3. 回避策

添付の別紙（使用制限事項一覧）をご参照ください。

4. 改善計画

使用制限事 No. 36, 44 を下記日程で改善することを計画しております。

ID78K0S-QB V3.00 (日本語版)	2007年9月バージョンアップ・サービス公開予定
ID78K0S-QB V3.00 (英語版)	2007年9月バージョンアップ・サービス公開予定

※本日程については予告なく変更する場合がありますので、改善品のリリース日程については、別途、弊社営業までお問い合わせください。

5. 制限事項一覧

制限事項の履歴とその詳細情報を使用制限事項一覧として別紙に記載します。

6. 発行文書履歴

78K0S 統合デバッガ ID78K0S-QB 使用制限事項一覧 発行文書履歴

発行番号	発行日	記事
ZBG-CD-05-0043	2005/5/23	ID78K0S-QB V2.81 使用制限事項通知
ZBG-CD-06-0034	2006/4/20	ID78K0S-QB V2.81 使用制限事項通知
ZBG-CD-06-0073	2006/8/23	ID78K0S-QB V2.82 使用制限事項通知
ZBG-CD-07-0057	2007/8/30	ID78K0S-QB V2.90 使用制限事項通知

ID78K0S-QB 使用制限事項一覧

1. 製品履歴

No.	使用制限事項	該当品種	V2.81	V2.82	V2.90	V3.00
1	ウォッチ・ウィンドウのビット変数/ビットフィールドの表示の桁が間違っている制限	MINICUBE+	×	○	○	○
2	読み取り専用のプロジェクト・ファイルに上書き保存ができる制限	MINICUBE+ MINICUBE2	×	×	○	○
3	PM+ でのアクティブプロジェクトの切り替え時の制限	MINICUBE+ MINICUBE2	×	×	—	—
4	“*.hex”のような入力によりファイルの種類を変更した場合の制限	MINICUBE+ MINICUBE2	×	×	○	○
5	PM+ でソースを追加してもソース・パスが追加されない制限	共通	×	×	×	×
6	再描画が正しく行われない場合がある制限	共通	×	×	×	×
7	ユーザ・プログラム中で 256 バイト使える制限	IECUBE MINICUBE+	×	×	×	×
8	[カーソル位置まで実行]時の制限	IECUBE MINICUBE+	×	×	×	×
9	ノンリアルタイム実行時にマスカブル割り込み動作をする制限	MINICUBE+	×	○	○	○
10	疑似リアルタイム RAM モニタ機能 (RRM 機能) 使用時における制限	IECUBE MINICUBE+	×	×	×	×
11	“map -clear”コマンドでマッピング情報が正しくクリアされない制限	MINICUBE+	×	×	○	○
12	func#var 形式のシンボルをアドレスに変換できない制限	共通	×	×	×	×
13	メモリ・ウィンドウで最終アドレスに移動すると 1 行多く表示する制限	共通	×	×	×	×
14	逆アセンブル・ウィンドウの操作に関わる制限	MINICUBE+ MINICUBE2	×	×	—	—
15	逆アセンブル・ウィンドウでサーチに失敗する制限	共通	×	×	×	×
16	ウォッチ・ウィンドウの[Refresh]ボタンが淡色表示になる制限	MINICUBE+ MINICUBE2	×	×	○	○
17	ウォッチ・ウィンドウに PSW の各ビットを登録した場合の制限	共通	×	×	×	×
18	検索不可領域をまたいで検索できない制限	共通	×	×	×	×
19	スタック・トレース・ウィンドウをファイル保存した場合の制限	MINICUBE+ MINICUBE2	×	×	○	○
20	デバugg・オプション設定ダイアログを開いた場合の制限	MINICUBE+ MINICUBE2	×	×	○	○
21	ソース・ウィンドウ、逆アセンブル・ウィンドウを Active/Static モード切替した場合の制限	MINICUBE+ MINICUBE2	×	×	○	○
22	ウォッチ・ウィンドウでアセンブラ・ソースのビット・シンボルを表示した場合の制限	MINICUBE+ MINICUBE2	×	×	○	○
23	ウォッチ・ウィンドウで文字列を表示した場合の制限	MINICUBE+ MINICUBE2	×	×	○	○
24	ソース・パス設定時のドライブ名が消える制限	MINICUBE+ MINICUBE2	×	×	○	○
25	ソース・パス設定時の新規追加したパスの制限	MINICUBE+ MINICUBE2	×	×	○	○
26	プロジェクト・ファイル保存、読み込み時の制限	MINICUBE+ MINICUBE2	×	×	○	○
27	ユーザ・プログラム実行中にソース・ウィンドウの混合表示が正しくない制限	共通	×	×	×	×
28	シンボル名をアドレスへ変換する時の制限	共通	×	×	×	×

×: 該当する ○: 該当しない —: 対象外

※共通・・・IECUBE, MINICUBE+, MINICUBE2 全てに該当する項目

No.	使用制限事項	該当品種	V2.81	V2.82	V2.90	V3.00
29	ウォッチ・ウインドウ表示時の制限	MINICUBE+ MINICUBE2	×	×	○	○
30	PSW のフラグが正しくアセンブルされない制限	MINICUBE+ MINICUBE2	×	×	○	○
31	クリップ・ボード貼り付け時の制限	共通	×	×	×	×
32	Pentium4 の機能で Hyper-Threading 機能を ON にしていると、ホスト・マシンがブルースクリーンになってしまうことや、不正動作が生じる場合がある制限	MINICUBE+	×	○	○	○
33	ウォッチ・ウインドウでバッファ・オーバーフローが発生する制限	MINICUBE+	×	○	○	○
34	デバッグ情報のないロード・モジュールでファイル名/関数名一覧を取得すると、ハングアップする制限	MINICUBE+	×	○	○	○
35	アプリケーションエラーになる場合がある制限	MINICUBE+	×	○	○	○
36	RRM 設定に関する制限	MINICUBE2	—	×	×	○
37	スタックの内容が壊れる場合がある制限	MINICUBE2	—	×	○	○
38	高速外部クロックや低速外部クロックで動作しない制限	MINICUBE2	—	×	○	○
39	内蔵高速発振クロックを使わない時にクロックが止まっているとハングアップする制限	MINICUBE2	—	×	○	○
40	CPU リセットするとモニター・タイムアウト・エラーになる制限	MINICUBE2	—	×	○	○
41	セルフ書き込みによるフラッシュ・メモリ・プログラミングのエミュレーション中にハングアップする制限	MINICUBE2	—	×	○	○
42	78K0S/KU1+へモニター・プログラムがダウンロードできない制限	MINICUBE2	—	×	○	○
43	ブレークポイントを設定できない制限	MINICUBE+ MINICUBE2	×	×	○	○
44	ファイル最後の命令が 1 バイト命令の場合、行情報が出力されない制限	共通	×	×	×	○
45	I/O ポート追加ダイアログでの SFR 追加に関する制限	共通	×	×	×	×
46	フォント・サイズ変更に関する制限	共通	×	×	×	×
47	アクセス・ブレーク設定に関する制限	共通	×	×	×	×
48	ウォッチ・ウインドウに関する制限	共通	×	×	×	×

×:該当する ○:該当しない —:対象外

※共通・・・IECUBE, MINICUBE+, MINICUBE2 全てに該当する項目

2. 使用制限事項の詳細

No.1 ウォッチ・ウインドウのビット変数/ビットフィールドの表示の桁が間違っている制限 <MINICUBE+>

【内容】ビット変数, ビットフィールド共に, ウォッチ・ウインドウに表示させると, 1 桁ではなく 16 桁(2 進数で, 0b1 ではなく 0b0000000000000001)と表示されます。

なお, データ内容は正常です。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.82 で修正しました。

No.2 読み取り専用のプロジェクト・ファイルに上書き保存ができる制限 <MINICUBE+, MINICUBE2>

【内容】OS によっては, プロジェクト・ファイル(*.prj,*.pri)のファイル属性を読み取り専用を設定しても, 上書き保存できてしまいます。

【回避策】ありません。

【改善案】V2.90 で修正しました。

No.3 PM+でのアクティブプロジェクトの切り替え時の制限 <MINICUBE+, MINICUBE2>

【内容】PM+と ID を起動中に PM+でアクティブプロジェクトを切り替えた時に, 切り替え先のプロジェクトにデバッガのプロジェクト・ファイル(.pri)がない場合は, 切り替え元のプロジェクトでロードしていたロード・モジュールがリセットされず残ってしまいます。

【回避策】プロジェクトを作成する場合, PM+のツール->デバッガの設定で, 「デバッガにダウンロード時, シンボル・リセットを実行する」をチェックしてください。

【改善案】V2.90 から PM+の修正により制限を対象外にしました。

No.4 “*.hex”のような入力によりファイルの種類を変更した場合の制限 <MINICUBE+, MINICUBE2>

【内容】ファイル選択系のダイアログにおいて, ファイル選択エリアで“*.hex”のように指定して拡張子選択エリアの表示を変更しても, 内部的には変更されていません。

【回避策】ファイルの種類は拡張子選択エリアで指定してください。

【改善案】V2.90 で修正しました。

No.5 PM+でソースを追加してもソース・パスが追加されない制限 <共通>

【内容】一度プロジェクト保存を行った状態で, PM+でこれまでソースがなかったパスのソースを追加しても, デバッガ側に新たなソース・パスが追加されません。

【回避策】デバッガのオプション(O)→デバッガ・オプション(G)でソース・パスを追加してください。

【改善案】修正を検討中です。

No.9 ノンリアルタイム実行時にマスカブル割り込み動作をする制限 <MINICUBE+>

【内 容】 マスカブル割り込み保留状態でノンリアルタイム実行(ステップイン、ネクストオーバー、スローモーション)すると割り込み動作を行ってしまいます。

【回避策】 ありません。

【改善案】 V2.82 で修正しました。

No.10 疑似リアルタイム RAM モニタ機能(RRM 機能)使用時における制限 <IECUBE, MINICUBE+>

【内 容】 RRM 設定を複数ポイント設定した場合、RRM 設定した最小アドレスをウォッチ・ウインドウまたはメモリ・ウインドウで表示しないと、RRM 設定した他のアドレスの値が更新しません。

例えば、

0xfe00(light_data), 0xfe10(idx), 0xfe62(@SEED), 0xfe72(@TOKPTR), 0xfe98(@STEND)を RRM 設定した場合、最小アドレスである 0xfe00(light_data)をウォッチ・ウインドウに登録しないと、0xfe10(idx), 0xfe62(@SEED), 0xfe72(@TOKPTR), 0xfe98(@STEND)をウォッチ・ウインドウに登録しても値が更新しません。または、メモリ・ウインドウで 0xfe00 を常に表示しないと RRM 設定した他のアドレスの値が更新しません。

【回避策】 ウォッチ・ウインドウまたはメモリ・ウインドウで RRM 設定した最小アドレスを表示してください。

【改善案】 修正を検討中です。

No.11 “map -clear ”コマンドでマッピング情報が正しくクリアされない制限 <MINICUBE+>

【内 容】 コンソール・ウインドウにおいて、“map -clear ”コマンドでメモリ・マッピング情報が正しくクリアされません。

【回避策】 マッピング情報をクリアしたい場合、コンフィギュレーション・ダイアログで行ってください。

【改善案】 V2.90 で修正しました。

No.12 func#var 形式のシンボルをアドレスに変換できない制限 <共通>

【内 容】 ① シンボル変換ダイアログにおいて、変換対象が変数の場合、func#var 形式のシンボル(func 関数名, var:変数名)をアドレスに変換することができません。

② 関数内 static 変数を func#var 形式のシンボル(func:関数名, var:変数名)でウォッチ登録すると、変数の値を表示できません。

【回避策】 func#var 形式以外の指定方法(var 形式, file#var 形式, file#func#var 形式)で設定してください。関数内 static 変数などで、同名の変数名が他に存在するときは、PG(プログラム・カウンタ)が当該関数内に存在しているときに設定してください。(file:ファイル名)

【改善案】 修正を検討中です。

No.13 メモリ・ウインドウで最終アドレスに移動すると 1 行多く表示する制限 <共通>

【内 容】 メモリ・ウインドウの“移動(V)”メニューで、最終アドレス(0xFFFF)を指定して移動した場合、1 行多く表示します。

【回避策】 ありません。

【改善案】 修正を検討中です。

No.14 逆アセンブル・ウインドウの操作に関わる制限 <MINICUBE+, MINICUBE2>

【内 容】 逆アセンブル・ウインドウで入力できない位置に、カーソルキーや Back Space キーで移動できてしまいます。

【回避策】 ありません。

【改善案】 V2.90 で制限を注意事項とし対象外としました。

No.15 逆アセンブル・ウィンドウでサーチに失敗する制限 <共通>

【内 容】 逆アセンブル・ウィンドウにおいて、サーチ範囲の最後の 0x400 分が検索対象とならない場合があります。例えば 0x1000~0x1FFF の範囲を Down 方向に検索した場合、0x1C00~0x1FFF の範囲に検索対象文字列があってもサーチに失敗する場合があります。同様に、0x2000~0x2FFF の範囲を Up 方向に検索した場合、0x2000~0x23FF の範囲はサーチに失敗する場合があります。

【回避策】 0x400 余分に検索してください。

例)0x1000~0x1FFF を Down 方向に検索したい場合は 0x1000~0x23FF にしてください。

【改善案】 修正を検討中です。

No.16 ウォッチ・ウィンドウの[Refresh] ボタンが淡色表示になる制限 <MINICUBE+, MINICUBE2>

【内 容】 ウォッチ・ウィンドウにおいて、一番下の項目を削除すると[Refresh] ボタンが淡色表示となります。

【回避策】 ウォッチ・ウィンドウをいったんクローズし、再度オープンしてください。

【改善案】 V2.90 で修正しました。

No.17 ウォッチ・ウィンドウに PSW の各ビットを登録した場合の制限 <共通>

【内 容】 ウォッチ・ウィンドウにおいて、PSW の各ビット(ie, z, rbs1, ac, rbs0, isp, cy)を登録すると、表示される値が正しくありません。また、値を変更しようとする以下のエラーが表示されます。

「A9004:レジスタのサイズが大きすぎます。」

【回避策】 レジスタ・ウィンドウで値の確認および変更を行ってください。

【改善案】 修正を検討中です。

No.18 検索不可領域をまたいで検索できない制限 <共通>

【内 容】 メモリ・サーチ・ダイアログおよび逆アセンブル・サーチ・ダイアログにおいて、検索範囲に検索不可領域(ノンマップ領域, SFR 領域, I/O プロテクト領域)が入っていると、その領域以降を検索しません。

【回避策】 ありません。

【改善案】 修正を検討中です。

No.19 スタック・トレース・ウィンドウをファイル保存した場合の制限 <MINICUBE+, MINICUBE2>

【内 容】 スタック・トレース・ウィンドウを メニュー → ファイル → 名前を付けて保存 して保存すると、ファイル内の変数値が“ ? ”になる場合があります。

【回避策】 ありません。

【改善案】 V2.90 で修正しました。

No.20 デバッグ・オプション設定ダイアログを開いた場合の制限 <MINICUBE+, MINICUBE2>

【内 容】 デバッグ・オプション設定ダイアログで[OK]すると、Tool Bar Pictures の位置がデフォルト位置に戻ります。

【回避策】 ありません。

【改善案】 V2.90 で修正しました。

- No.21 ソース・ウインドウ, 逆アセンブル・ウインドウを Active/Static モード切替した場合の制限 <MINICUBE+, MINICUBE2>
- 【内 容】 RUN 中にソース・ウインドウ, 逆アセンブル・ウインドウを Active/Static モードに切り替えると以下のエラーが表示する場合があります。
- 「F7001:ユーザ・プログラム実行中です。」
- 【回避策】ありません。
- 【改善案】 V2.90 で修正しました。
- No.22 ウォッチ・ウインドウでアセンブラ・ソースのビット・シンボルを表示した場合の制限 <MINICUBE+, MINICUBE2>
- 【内 容】 ウォッチ・ウインドウにアセンブラ・ソースのビット・シンボルを登録すると, 値が“ ? ”になります。
- 【回避策】ありません。
- 【改善案】 V2.90 で修正しました。
- No.23 ウォッチ・ウインドウで文字列を表示した場合の制限 <MINICUBE+, MINICUBE2>
- 【内 容】 ウォッチ・ウインドウで文字列を表示すると文字化けする場合があります。
- 【回避策】ありません。
- 【改善案】 V2.90 で修正しました。
- No.24 ソース・パス設定時のドライブ名が消える制限 <MINICUBE+, MINICUBE2>
- 【内 容】 デバッグ・オプション設定ダイアログで新規にソース・パスを設定した場合, ドライブ名が消える場合があります
- 【回避策】ありません。
- 【改善案】 V2.90 で修正しました。
- No.25 ソース・パス設定時の新規追加したパスの制限 <MINICUBE+, MINICUBE2>
- 【内 容】 デバッグ・オプション設定ダイアログで新規に追加したパス名が, 既存のパス名の後ろに追加されてしまう場合があります。
- この状態でプロジェクト・ファイルに保存すると不正なパス名が保存され, 次回プロジェクトを開いたときに以下のエラーが表示し, ソース・パスが空になる場合があります。
- 「Fc001:ファイルのオープンに失敗しました。」
- 【回避策】ありません。
- 【改善案】 V2.90 で修正しました。
- No.26 プロジェクト・ファイル保存, 読み込み時の制限 <MINICUBE+, MINICUBE2>
- 【内 容】 VirusScan7.1 以上でオンアクセス スキャンを“ON”にした場合, プロジェクト・ファイルの保存および読み込みが著しく遅くなる場合があります。
- 【回避策】 アンチウイルスソフトの除外設定で“.PRI”ファイルを除外してください。
- 【改善案】 V2.90 で修正しました。
- No.27 ユーザ・プログラム実行中にソース・ウインドウの混合表示が正しくない制限 <共通>
- 【内 容】 ユーザ・プログラム実行中にソース・ウインドウを混合表示すると, 逆アセンブル表示部分が正しい値を示しません。
- 【回避策】ありません。
- 【改善案】 修正を検討中です。

No.28 シンボル名をアドレスへ変換する時の制限 <共通>

【内 容】 関数名や変数名に先頭のアンダーバーの違いだけの類似シンボル名を定義した場合、シンボル名のアドレスへの変換が正常に行われません。

例えば、“_reset”をアドレス変換すると“_reset”のアドレスに変換します。“_”が2つのシンボルと同じシンボルのアドレスに変換します。

【回避策】 類似シンボル名の使用は避けてください。

【改善案】 修正を検討中です。

No.29 ウォッチ・ウインドウ表示時の制限 <MINICUBE+, MINICUBE2>

【内 容】 シンボルの数が非常に多い場合、ウォッチ・ウインドウにシンボルを表示していると表示が遅くなる場合があります。

【回避策】 ありません。

【改善案】 V2.90 で修正しました。

No.30 PSW のフラグが正しくアセンブルされない制限 <MINICUBE+, MINICUBE2>

【内 容】 PSW のフラグを以下のように変換してしまいます。

入力	コード
SET1 IE	0A761E
SET1 Z	0A661E
SET1 AC	0A461E
CLR1 IE	0AF61E
CLR1 Z	0AE61E
CLR1 AC	0AC61E

【回避策】 アセンブラ命令を以下のように再入力してください。

再入力	コード
SET1 PSW.7H またはEI	0A7A1E
SET1 PSW.6H	0A6A1E
SET1 PSW.4H	0A4A1E
CLR1 PSW.7H またはDI	0AFA1E
CLR1 PSW.6H	0AEA1E
CLR1 PSW.4H	0ACA1E

【改善案】 V2.90 で修正しました。

No.31 クリップ・ボード貼り付け時の制限 <共通>

【内 容】 ウォッチ・ウインドウやレジスタ・ウインドウ、SFR ウインドウ等にコピー・アンド・ペーストまたはカット・アンド・ペーストする際のクリップ・ボードから値を書き込む場合、1回の[Enter]キーで値を書き込みません。

【回避策】 ペーストした値を書き込む場合、[Enter]キーは2回押してください。

【改善案】 修正を検討中です。

No.32 Pentium4 の機能で Hyper-Threading 機能を ON にしていると、ホスト・マシンがブルースクリーンになってしまうことや、不正動作が生じる場合がある制限 <MINICUBE+>

【内 容】 Pentium4 の機能で Hyper-Threading 機能を ON にしていると、ホスト・マシンがブルースクリーンになってしまうことや、不正動作が生じる場合があります。

【回避策】ありません。

【改善案】 V2.82 で修正しました。

No.33 ウォッチ・ウインドウでバッファ・オーバーフローが発生する制限 <MINICUBE+>

【内 容】 4次元の配列をウォッチ・ウインドウに登録した場合、バッファ・オーバーフローが発生する場合があります。

【回避策】ありません。

【改善案】 V2.82 で修正しました。

No.34 デバッグ情報のないロード・モジュールでファイル名/関数名一覧を取得すると、ハングアップする制限 <MINICUBE+>

【内 容】 ウォッチ・ウインドウ、イベント・マネージャ、コンソール・ウインドウでデバッグ情報のないロード・モジュールでファイル名/関数名一覧を取得すると、ハングアップする場合があります。

【回避策】ありません。

【改善案】 V2.82 で修正しました。

No.35 アプリケーションエラーになる場合がある制限 <MINICUBE+>

【内 容】 以下の不具合を修正しました。

- ① レジスタ・ウインドウで編集集中に下矢印キーを押すと、アプリケーションエラーになる場合があります。
- ② デバッガ終了時にアプリケーションエラーになる場合があります。
- ③ PM+ で 1024 文字以上のパスを設定したプロジェクト・ファイルを作成し、以下の操作を行うと、アプリケーションエラーになります。
 - a) デバッガでプロジェクト・ファイルを上書きした場合
 - b) デバッガ・オプション設定ダイアログを開いた場合
- ④ メモリ・ウインドウの最終アドレスへ移動し、ユーザ・プログラムを実行させるとアプリケーションエラーになる場合があります。

【回避策】ありません。

【改善案】 V2.82 で修正しました。

No.36 RRM 設定に関する制限 <MINICUBE2>

【内 容】 メモリ・ウインドウ上の右クリック・メニューで「RRM 設定...」メニューを選択すると、RRM 設定ダイアログが開いてしまいます。MINICUBE2 には疑似リアルタイム RAM モニタ機能 (RRM 機能) が無いため、設定してもメモリ・ウインドウおよびウォッチ・ウインドウの値が変化しません

【回避策】ありません。

【改善案】 V3.00 で修正します。

No.37 スタックの内容が壊れる場合がある制限 <MINICUBE2>

【内 容】 スタック操作を伴う命令をステップ実行した後にリアルタイム実行するとスタックの内容が壊れる場合があります。

【回避策】 ありません。

【改善案】 V2.90 で修正しました。

No.38 高速外部クロックや低速外部クロックで動作しない制限 <MINICUBE2>

【内 容】 高速外部クロック(10MHz 等)や低速外部クロック(1MHz 等)で動作しない場合があります。

【回避策】 ありません。

【改善案】 V2.90 で修正しました。

No.39 内蔵高速発振クロックを使わない時にクロックが止まっているとハングアップする制限 <MINICUBE2>

【内 容】 内蔵高速発振クロックを使わない時にクロックが止まっているとハングアップする場合があります。

【回避策】 ありません。

【改善案】 V2.90 で修正しました。

No.40 CPU リセットするとモニタ・タイムアウト・エラーになる制限 <MINICUBE2>

【内 容】 ユーザ・プログラムにて INTP3(または INTP1)の割り込みが禁止された状態で CPU リセットすると、モニタ・タイムアウト・エラーになる場合があります。

【回避策】 ありません。

【改善案】 V2.90 で修正しました。

No.41 セルフ書き込みによるフラッシュ・メモリ・プログラミングのエミュレーション中にハングアップする制限 <MINICUBE2>

【内 容】 セルフ書き込みによるフラッシュ・メモリ・プログラミングの実行後にデバッガから内蔵フラッシュ・メモリ書き込みやソフトウェア・ブレークポイントの設定/解除を伴う操作を行うとハングアップする場合があります。

【回避策】 ありません。

【改善案】 V2.90 で修正しました。

No.42 78K0S/KU1+へモニタ・プログラムがダウンロードできない制限 <MINICUBE2>

【内 容】 78K0S/KU1+へモニタ・プログラムをダウンロードできず、以下のエラーが表示します。

「A01a0: エミュレーション CPU から応答がありません。RESET などの信号やクロック信号に異常がないか確認してください。」

【回避策】 ありません。

【改善案】 V2.90 で修正しました。

No.43 ブレークポイントを設定できない制限 <MINICUBE+, MINICUBE2>

【内容】 ブレークポイントを設定するアドレスに最も近いシンボル名が EQU シンボルの場合、ブレークポイントを設定できません。

例)

```

MAX EQU 100H
      func ( )
0FEH {           ブレークポイントを設定可能
100H   ...       ブレークポイントを設定不可
102H   ...       ブレークポイントを設定不可
104H }           ブレークポイントを設定不可

```

この例では 100H~104H の行では最も近いシンボルが func でなく MAX(EQU シンボル)になるため、ブレークポイントを設定することができません。

【回避策】 ありません。

【改善案】 V2.90 で修正しました。

No.44 ファイル最後の命令が 1 バイト命令の場合、行情報が出力されない制限 <共通>

【内容】 下図のように、ソース・ファイル最後の命令が 1 バイト命令の場合(例:RET 命令)、その命令行にプログラム・コード(*)の表示が無く、イベント(ブレークポイント等)が設定できない場合やステップ実行できない状態となります。

Search...	<<	>>	Watch	Quic
*		63	PUSH	AX
*		64	CLR1	RSTOP
*		65	CLR1	XSEL
*		66	CLR1	MCMO
*		67	SET1	MCMO
*		68	CLR1	OSCSELS
*		69	SET1	MSTOP
*		70	MOV	PCC, A
*		71	POP	AX
		72	RET	
		73	END	

【回避策】 逆アセンブル・ウィンドウでイベント(ブレークポイント等)の設定、およびステップ実行してください。

【改善案】 V3.00 で修正します。

No.45 I/O ポート追加ダイアログでの SFR 追加に関する制限 <共通>

【内 容】 I/O ポート追加ダイアログ(ソース内で SFR 名を別名に define している場合などに使用するダイアログ)で SFR の登録を行う場合、以下の制限事項があります。

- ① R/W 属性の SFR を、W 属性として別名で登録し、その SFR をさらにウォッチ・ウィンドウへ登録してウォッチ・ウィンドウから値を変更した場合、SFR ウィンドウで表示している値が更新されません。
- ② 以下の2つの条件を両方とも満たす SFR を登録した場合、SFR の登録は可能ですが、SFR ウィンドウのコンテキスト・メニュー(右クリック・メニュー)の[移動]で、登録した SFR を表示しようとする、エラーになってしまい移動できません。
 - ・登録する SFR の名前が汎用レジスタの名前と同じ
 - ・登録するアドレスが SFR 領域のアドレス(実際の汎用レジスタとは異なるアドレス)

【回避策】① ウォッチ・ウィンドウで値を変更する際は、2 回以上入力してください。もしくは SFR ウィンドウで値を変更してください。

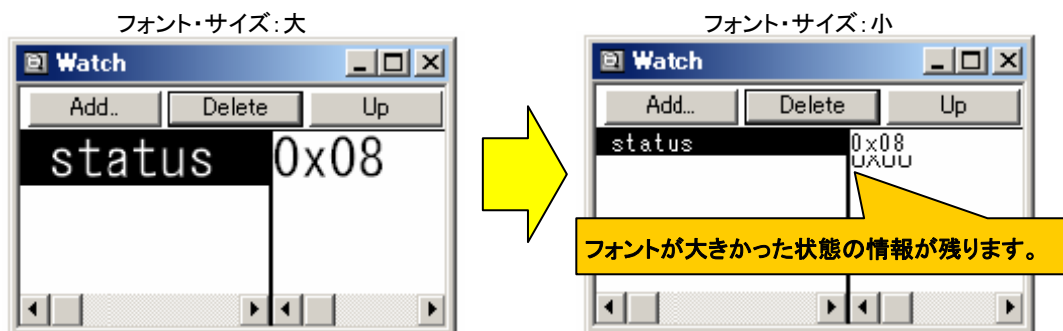
② ありません。

【改善案】修正を検討中です。

No.46 フォント・サイズ変更に関する制限 <共通>

【内 容】 ウォッチ・ウィンドウ、およびローカル変数ウィンドウのフォント・サイズは[オプション]メニューにある[デバッグ・オプション]内の[Font]エリアで指定できますが、フォント・サイズを小さくした場合、フォントが大きかった状態の情報が残ります。

(下図はウォッチ・ウィンドウの例)



【回避策】どちらのウィンドウの場合でも、ウィンドウを一度最小化して、元のサイズに戻してください。もしくは、ウィンドウを一度閉じてから、再度開いてください。

【改善案】修正を検討中です。

No.47 アクセス・ブレーク設定に関する制限 <共通>

- 【内 容】 ① ウォッチ・ウィンドウからアクセス・ブレークを設定する場合, global 変数以外に設定できません。
② ソース・ウィンドウからアクセス・ブレークを設定する場合, global 変数以外に設定できません。

【回避策】 関数内 static 変数に対するアクセス・ブレーク設定は, 関数内にカレント PC 行が有るときに, イベント・ダイアログを使って設定してください。

ファイル内 static 変数に対するアクセス・ブレーク設定は, ファイル内にカレント PC 行が有るときに, イベント・ダイアログを使って設定してください。

【改善案】 修正を検討中です。

No.48 ウォッチ・ウィンドウに関する制限 <共通>

- 【内 容】 ① ウォッチ・ウィンドウに汎用レジスタを登録した場合, 表示桁が不正になる場合があります。

例えば,

PC レジスタの場合, 本来は 5 桁ありますが 4 桁の表示になることがあります。

- ② ウォッチ・ウィンドウにおいて, 一番下の項目を削除すると[Refresh]ボタンがグレー表示となりボタンを押すことが出来なくなります。

【回避策】 ① 汎用レジスタの参照はレジスタ・ウィンドウで行なってください。

- ② ウォッチ・ウィンドウを一度閉じてから, 再度開いてください。

【改善案】 修正を検討中です。

以上